

アベノミクスってどうなの!?

総選挙で自公が絶対的多数を得て、安倍政権になってから間もなく2年となります。この間、政権支持率は高止まりし、アベノミクスなる造語も日常化しました。大胆な金融緩和、機動的な財政出動、規制改革などによる成長戦略。いわゆる3本の矢は、こんなところでしょうか。日本の20年以上続くデフレ停滞経済を打破し、これからますます進行する少子高齢化・生産年齢人口社会に活力を生み出し、1千兆円を超える政府部門の債務問題を改善させてくれるなら、これはどういった政権でも素晴らしい政権です。ですから出来るならば是非、成功してほしいと願っています。本年の4月から消費税率がアップしましたが、案外、国民からの反発はなかったと思います。それもこれも、財政を立て直し、日本の抱える課題に寄与できるなら我慢しよう、日本の将来のためなら協

力しようと多くの国民が思っているからだろうと私は、考えています。

ではアベノミクスの成功のカギは何か。一番大切なのは3本目の成長戦略です。貴重な人や資金などの資源を成長分野に振り向ける。社会の構造改革を推進し、産業の国際競争力を強化する。そして、国民経済の発展及び国民生活の向上を図るということです。ですけれど、この肝心な部分がまったくできていない。むしろ旧来通りのバラマキ。自己努力によって変わっていかねばいけない産業や業界を貴重な財源を使って、ただただ延命させているだけ。これが実態だと思います。

なぜ私が、そのように思うかという、地方議員としての経験からです。地方議員として、国から地方へのお金の流れや地方の財政支出の現状を目の当たりにしての実感です。こうした流れや現状を打破するのが我々の役目と考えています。

小さいことかもしれませんが

公費を使つての海外視察に、なぜ望月は行かないのか。

本市議会では、任期中に議員の個々の判断で目的地を選び、行くことのできる海外視察制度があります。望月は、2011年4月の選挙の際、当選した場合に、この任期中にこの制度を使つての海外視察には行かないことを公約に掲げました。

私も議員が国際視野を広めたり、海外も含め様々な事例を実体験しながら政策に生かしていくことの大切さは理解しています。一方で、議員の海外視察が市民から見て、どう市民生活の向上に生かされているのか実感できない現状があること。そもそも議員の自己の研鑽として海外視察なら私費で賄うべきものであり、本当に議会として必要な視察なら、代表団を送れば十分であること。本市の財政状況は厳しい状況にあり、かつてのような市民サービスの提供が容易にはできない状況であること。そして、そうした財政状況であるからこそ、あらゆる行政サービスの見直しを含めた行財政改革の必要を私が訴えていること。以上の理由で上述の公約を掲げました。

議員〔候補者〕は、具体的なものから願望のようなものまで、選挙の際に様々な公約を掲げます。そして問題なのは、

その公約が実現されないばかりか、実行されようとすらしな

いことです。それが政治不信の原因の一つと考えています。私もいくつかの公約を掲げ選挙を戦いました。そして既に実現出来ているものもあれば、出来ていないものがあります。出来ていないものがある理由は、時間がかかるものであったり、議会で多数派を握れていないがためであったりします。自分なりに精いっぱいやっているつもりでも、力不足ゆえのものも、きつとあることと思います。場合によっては、掲げてみたけれども、タイミングの問題などもあり必ずしも着手しないほうがよさそうなものも稀にはあります。ただ、何かしらの理由をつけて一切の公約を実現せず。実行しようとせず。それだけは絶対やりたくはありません。特に自分自身にやる気さえあれば、実行できること。一期目の1人の議員であっても実現できるものは、実現しようと思っています。それでは、私の場合に、そうやって有権者との約束を守れるものは何か、と考えると、それは、公費を使つての海外視察に行かないことであったり、定期的に広く議会報告を行っていくことなどがあります。以上は例ですが、出来ることは、出来るものから実現するということです。理屈ではないと考えています。

そんなわけで私は、公費を使つての海外視察には行っておりません。公約に掲げたことは色々あります。時間がかかってもなんとかできる限り実行していこうと思います。



望月高徳プロフィール

維新の党。横浜市議員（都筑区選出）。

静岡県出身。早稲田大学政経学部政治学科卒業後、(株)野村総合研究所社員、学習塾経営、専門学校講師などを経て特定の業界団体・組織の推薦を受けることなく、11,235名のご信任を得て平成23年4月より現職。既得権に縛られることなく議員活動中! 皆様の声が、望月の“政治活動の羅針盤”。**行財政改革、税の有効活用、公教育の刷新**に特に力を入れています。政治を志す原点は、学生時代の新聞奨学生体験。政治信条: 公生、共生、寛容。好きな言葉: 感謝。

望月高徳事務所

TEL&FAX: 045-532-9089

Email▶info@khotoku.net HP▶http://www.khotoku.net

〒224-0003 都筑区中川中央1-24-17-2F (市営地下鉄センター北駅一番出口すぐ前)